

雪を踏みしめながらスノーシューハイクを楽しむ南富良野
高生ら



スノーシューで森歩き「楽しい」

南富良野高生 野生動物の生態学ぶ

【南富良野】南富良野高の1、2年生計18人が、町内落合のNPO法人どんころ野外学校周辺の森林で、雪面をスノーシューをはいて歩く「スノーシューハイク」を行った。野生動物の生態を学びつつ、冬に野外活動をする際の危機管理などについて理解を深めた。

町の観光資源である多彩な野外活動について学ぶアウトドア科目の授業で昨年度から導入しており、今年は1月31日に行った。ガイドはどんころ野外学校スタッフの新野和也さん(54)ら3人が務めた。

新野さんが「衣服で体温

調節する」などの低体温症の予防法を説明した後、一行はスノーシューハイクに出発。雪を踏みしめて同校の敷地周辺を散策。夏は歩けない斜面を上り下りしながら、クマゲラが樹木に開けた大きな穴のほか、リスやキツネとみられる足跡を観察した。

1年の加藤久陽さん(16)は「スノーシューを履いて歩くのは初めてだったけど、雪上を歩くのが気持ち良かった」。1年の中嶋華乃さん(16)は「低体温症の予防など、今日の経験が冬の野外活動をする際の参考にしたい」と話していた。

(相武大輝)

令和5年(2023年)2月2日

北海道新聞朝刊